

全般にドルの上昇力が弱まっていく展開でしょう。インフレの元凶エネルギー価格の代表、WTI も瞬間つけた 130 ドルには遠く及ばず 100±10 ドル/バーレルという状態ですから、時間の経過とともに先陣を切っているアメリカのインフレ率が前年比で下がっていきます。最低賃金法の影響も今年で一巡ですから、労働生産性に見合わない人件費上昇もそろそろおしまいです。消費の拡大もインフレによる実質購買力の目減りで減少に転ずるでしょう。従って米金利は 10 年債で 3%がかなり上限に近いと見ます。市場の期待インフレ率も 3%が上限になりつつあります。

アメリカの更なる金利急上昇を期待した投機筋が円売りをあきらめるのももうすぐ（最近の動きはそれの前哨戦かなとも思っています）ユーロはウクライナ情勢次第でしょう。いずれにしてもドイツをはじめ欧州諸国はロシアのエネルギーなければ生きていけませんから、結局輸入し続けると思います。エネルギー市場が政治の打算に気づけば、懸念は小さくなります。ユーロの瞬間 1.04 水準はいかにも行き過ぎだと考えています。1.06 台以下は買うべきでしょう。米国は、貿易赤字垂れ流したままで、対外債務はさらに悪化していますから、ドル余剰は変わらず、現状の一時的なドル不足も解消して、いずれ減価していくものと思います。ロシア・中国・イランなどの反米連合軍は経済的にはドルによる決済を縮小させ、自分たちの便利な通貨で決済を実態で進め、将来、場合によってデジタル人民元への移行を目論んでいると見ています。原油決済がドル離れすればこれは加速します。アフリカ、中東など追随する国も多いのではないかと見ています。国境が直線で西側勢力に決められた国々は地域内の民族問題などもあるので、これを元に戻す動きも多く出てくると考えています。長きにわたって続いた西欧流の国際秩序のメルトダウンだと思っています。その象徴がドルのメルトダウンではないでしょうか？